



2025 年 9 月 11 日

各 位

会社名 株式会社 モダリス
代表者名 代表取締役 CEO 森田 晴彦
(コード：4883、東証グロース)
問合せ先 執行役員 中島 陽介
(TEL. 03-6231-0456)

MAPT 遺伝子を標的としたタウオパチー治療に関する日本特許成立のお知らせ

株式会社モダリス（本社：東京都、代表取締役 CEO：森田 晴彦、以下「当社」）は、このたび、当社が出願していた特許「MAPT 遺伝子を標的としたアルツハイマー病の治療方法（特願 2023-501249）」が、日本特許商標庁（JPTO）により特許として認められたことのお知らせいたします。

本特許は、当社独自の CRISPR-GNDM®エピゲノム編集技術を用いて、ヒト微小管関連タンパク質タウ（MAPT）遺伝子を標的とし、その発現を強力かつ特異的に抑制する方法および医薬組成物に関するものです。アルツハイマー病をはじめとするタウオパチーに対して、新たな治療法を提供できる可能性があります。発明者は Talha Akbulut 博士、山形哲也博士を含む当社研究開発チームです。

近年の大規模コホートやメタ研究では、タウ PET の集積度が、認知機能低下や疾患重症度と強く相関し、アミロイド PET や MRI 指標よりも将来の認知予後を高精度に予測することが示されています。本発明により、アルツハイマー病の原因の一つとされるタウタンパク質の異常な蓄積や凝集を抑制することで、病態進行の抑制や予防効果が期待されます。今後、当社は本特許技術を活用し、アンメットメディカルニーズに応える革新的な治療法である MDL-104 の開発を進めてまいります。

以上

エピゲノム編集：DNA やヒストンのメチル化などを制御することにより、遺伝子配列はそのままの状態、遺伝子のオン・オフを転写レベルで制御すること。